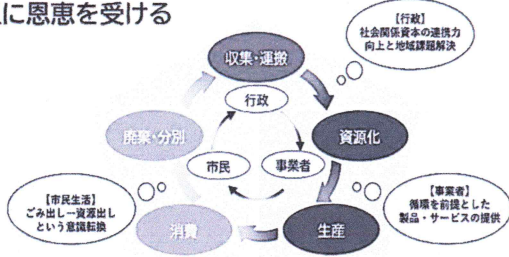




持続可能な資源循環社会

相互に恩恵を受ける



さらなる取り組み 令和6年度 (ごみ削減)

使用済み紙おむつの資源化調査

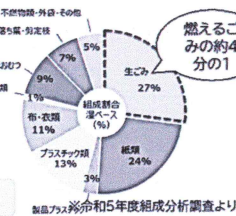
高齢化の進行に伴い排出量の増加が見込まれること、含水量が多く焼却にエネルギーを要することから焼却処理ではなく、資源として活用するための研究を行う。

主に固形燃料にすることを検討し、焼却処理ではなくボイラー等での利用可否について研究を進める。



生ごみ処理機の購入費補助

家庭から発生する生ごみの減量による、ごみ総量の削減を目指すため、市民活動団体と連携して、更なるごみの減量に対する市民意識の向上を図る。



製品プラスチックの資源循環実証実験

令和4年4月の「プラスチック資源循環法」の施行など資源化の必要性が高まっていることから、製品プラスチックリサイクルの取り組みの一つとして、店頭回収による資源循環実証実験を実施中。

剪定枝の処分費用助成

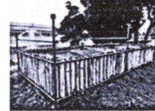
家庭から発生する剪定枝の資源化を目的に、自治区がコンテナ回収し、市内資源化事業者へ搬入した剪定枝の処分費用を補助。



自治会によるコンテナ回収

落ち葉の堆肥化設備設置費補助

落ち葉の資源化を目的に、自治区が公園等に設置する落ち葉・刈り草等の堆肥化設備の設置費用を補助。



市内に設置された堆肥化設備

ごみの減量化への取り組みが進展中

議員になった直後から一般質問や、予算決算の質疑などで「ごみを減らそう」といういろいろな提案をしてきました。

焼却炉が壊れて非常事態宣言を出した時も、リサイクルプラザの火事で不燃ごみの外部搬出が決まったときも「ピンチを減量のチャンスに」と発言しました。生ごみ処理機や剪定枝助成の打ち切り予算にも反対し、制度の復活を迫り、落ち葉をゴミではなく、堆肥化しようとして訴えてきました。

なかなか相手にされませんでした。が、今減量への取り組みが具体化されようとしています。ごみを燃やして良いの時代は終わり、生ごみも、プラごみも燃やさない、環境に負荷をかけない減量化にやっとながが切られました。

この先進的な掛川市の取り組みを評価します。なぜ政策転換が必要になっているのかを丁寧に市民に説明し、協力を求める機会がもっとも必要です。もったいないとこつこつ生活する高齢者と、大量生産消費にどっぷりつかつてもいるけど環境の持続性には敏感な若者がコラボできるとちがう景色が広がらないかな、と期待しています。安定運用が難しくなつてしまつた焼却炉を今年いっぱい停止して、新しい焼却炉ができるまで、ごみの全量外部搬出を行なう予定です。

バッシングは何のため⇒

その意図を見極めよう

東京都知事選の後に起こっている蓮舫さんへのバッシングと、既成政党はダメ、共産党はダメの論評。今回の選挙で広がった市民が自分で政治を考え訴える一人スタンディング流れも、自民党に対峙する野党共闘も、きっちりものをいう女性の存在もつぶしたいものなのだろうと改めて感じています。

女の特性が「忖度して男を立て波風立てずに穏やかに」である限り、「はっきりきっちりものをいう、妥協せず追求する」という男性であれば評価されるであろうことが、バッシングにつながります。

沖縄で起きている米兵性暴力事件の隠ぺいに平気な上川陽子外務大臣。ヘイト発言や右翼的発言を続ける女性議員たち。

多様性を認め、社会的に弱い人の立場に立ち“きっちりものをいう女性”でありたいと、私は思っています。



かたまつて
たくさん咲く
西洋アサガオ

ごみが減れば、ダイレクトにごみ処理費用が減ります。今度こそピンチをチャンスに、思い切つたごみの減量に、市民と行政が力を合わせられるといいな、と思います。

